探究講座①「探究活動とは？」

1. 本時の目標

・探究活動が行なわれている背景（探究活動の意義・必要性，教育の変遷の様子など）を理解する。
・発表会における質問の種類や考え方について学ぶ。
・過去の探究活動の体験談を聞き，探究活動の意義やその必要性を学ぶ。

2. 本講座で生徒に身につけて欲しいコンピテンシー

本講座に関しては，探究活動や今後の活動に関して意欲を向上させることに目標を置いている。課題発見、問題解決といった探究活動の過程において何より生徒自身が主体的に取り組むことが大切であり、高い意欲とともに粘り強く試行錯誤することで「生徒エージェンシー」が育まれていくと考えているためである。本講座においては以下のようなパフォーマンス課題を用いて，探究活動の目標達成に向けた具体的な行動につなげるための「気づき」が得られたかどうかを評価することにした。

3. パフォーマンス課題と評価手法（ルーブリック）

【パフォーマンス課題：主体的に学習に取り組む態度】

本時を踏まえて，“今後，探究活動を進めるにあたり，大切にしようと思ったこと”を 100 字以内でまとめて，Google Form に入力しましょう。

【評価手法（ルーブリック）】

	具体的な育成項目	4	3	2	1
主体的に学習に取り組む態度	探究活動に向けての大切にすること	今後の探究活動に向けて，具体的にどのような行動をすれば良いのか，大切にしようと思うことを書けており，特に評価できる。	今後の探究活動に向けて，具体的にどのような行動をすれば良いのか，大切にしようと思うことを書けている。	今後の探究活動に向けて，心持ちなど，大切にしようと思うことを書けている。	今後の探究活動に向けて，大切にしようと思うことを書けていない。

4. 本時の展開

探究講座①「『質疑応答』でみんなが深まる発表会へ」1 時間目

時間	学習の内容	教材・留意点
0	出欠確認，ワークシートの配布 ファシリテーター登壇（K.S 先生） ・ファシリテーター自己紹介	
5	質疑応答についての講義 ・なぜ質問できないのか？ ・質問のパターン例を見渡してみよう →ワークシートの「Q パタ」を確認	スライド，ワークシート

15	活動① ・具体的な探究ポスターに対して →①ポスター読み込み，②質問例から良いと感じた質問を 3 つ選び理由を記入，③4 人グループで共有	ワークシート記入
35	活動② ・先輩の探究発表に向けて →質問内容を 4 人グループで 1 つ以上考え，フォームで提出	Google Form アンケート
50	ファシリテーター降壇	

探究講座①「探究活動とは？～OBOG からのメッセージ～」　2・3 時間目

時間	学習の内容	教材
0	出欠確認 ・ファシリテーター登壇（N.S 先生）・講演者登壇	
5	・講演者自己紹介・探究活動の成果発表（各発表 15 分間×2） 69 期　K.M さん （探究テーマ：学校教育での英語スピーキング能力育成におけるディズニー映画の有用可能性，文系） 70 期　K.G さん （探究テーマ：刺身断面の筋原繊維の微細構造と構造色の関係に関する検討，理科系）	OB・OG 作成のスライド
40	小休止	
50	パネルディスカッションシンポジウム ・探究テーマの決め方 ―テーマの変遷，モチベーションの波をどう乗り切ったか　など ・探究へのアドバイス ―発表することの意義，スケジュール管理，とにかく実験をする，文字にまとめる事をさぼらない　など ・学校生活から ―レポートの意義，附属高校のよい環境を利用する，友達や仲間とのつながりの大切さ　など	事前に OB・OG と打ち合わせをし、シンポジウムの構想を検討する
70	質疑応答	
90	OB・OG から 1 年生へのメッセージ	

探究講座①「プチ探究ガイダンス」4 時間目

時間	学習の内容	教材
0	出欠確認，ワークシートの配布	
5	ファシリテーター登壇（O.T 先生） 探究活動についての講義 ・探究とは？ 研究との違い　　教科の学習を軸に探究に広げていく ・探究のステップ １　テーマの決定 ２　リサーチクエスチョンをたてよう ２．５　正しい情報を集めよう ３　仮説 ４　適切な研究（探究）方法	スライド，ワークシート
10	活動①探究テーマについて問いを立ててみよう テーマ：「水族館」 答えがすぐに見つからない問い（何通りも答えがある） 例：水族館に求められる教育プログラムとは？	
20	活動②仮説をたてよう RQ「A 市の水族館の教育的役割を促進させるにはどのような方法が考えられるか」 「水族館」だけで調べても限界がある 他の視点で考える　動物園は？映画館は？	
30	１学期の予定 ・スケジュール，プチ探究のルール，テーマ，注意事項など テーマ ①今の令和時代においてカリキュラムに足りない科目は？ ②『まち』の社会問題を解決するには？ ③日常の問題は数学で解けるのか？ ④「文字」にはどのような歴史があるのだろうか？ ⑤エンターテイメントにおいてヒットの法則はあるのか？ ⑥附高をより過ごしやすくするためには？ ⑦今の子育て世代に必要な支援は？ ⑧附高はどのような生物相になっているのだろうか？ ※特に，『探究活動を「未来を創る場」として，自らのキャリアとの関連性を考える機会とすること』を強調	Google Form アンケート

出典：大阪府立豊中高校.課題研究教材.Q パタ
https://www2.osaka-c.ed.jp/toyonaka/0b2799b6c62ac2eba35f3330c997b8d6.pdf